



新型コロナウイルスの感染拡大に思う

町史編さん室長 亀沢 修(近世・近代・民俗担当)

新型コロナウイルス感染拡大で、約百年前の大正7年(1918)から大正9年(1920)にパンデミック(世界的大流行)に陥ったスペイン風邪が話題になりました。スペイン風邪は、人類が最初に遭遇したインフルエンザの世界的大流行として知られ、当時の世界人口の3割近くが感染したと言われています。

日本では「流行性感冒」と称し、その惨状は当時の人口5,600万人の内、45万人もの国民が亡くなったほどでした。小坂町には、大正7年(1918)11月の状況を記録した「流行性感冒患者及死亡者数調」(小坂製錬資料)という資料が残されています。

当時の小坂町の人口は2万人を超え、秋田県下第二の人口を持つ鉾山都市でしたが、11月の患者数は人口のおおよそ1割の2,819人、重症者が938人、死亡者は40人でした。これとは別に、同月の七滝村の死亡者は9人と記録されています。このほか、流行性感冒を要因とする他の病気を併発して亡くなった小坂町の人々は76人で、同月の合計死亡者数がわずか一か月で116人にまで達していたのです。

また、小坂町役場がまとめた同年11月1日から12月10日までの「小坂町死亡者調」(小坂製錬資料)を見ると、流行性感冒では乳幼児から10歳までの死亡者数が最も多く、亡くなった方の約9割が40歳以下の人たちでした。この記録だけを見ても、当時の日本では、次代を担う子どもたちと働き手の多くの命が奪われたことを想像することができます。

スペイン風邪の病原体は、A型インフルエンザウイルスだったと言われますが、当時の技術では解明できず、特効薬もワクチンもありませんでした。小坂町には既に小坂鉾山病院がありましたが、隔離病棟

を備え最先端の医療設備と医師数を誇った鉾山病院をしても、手の施しようがなかったことでしょう。

翌大正8年(1919)1月、日本政府は「流行性感冒予防心得」を発表しました。そこには、「せきをしている人に近づかないこと、多くの人が集まるところに立ち入らないこと、人の多い場所に出向くときはマスクやハンカチなどで鼻や口を覆うこと、患者は隔離すること」などがあり、現在と同じ認識で対処していたことが分かります。また、全国の自治体でも、集会等の中止や学校の休校、マスクやうがいの奨励などの予防措置が講じられたようです。

当時は、情報量も少なく、今以上に未知の病の恐ろしさは大きいものであったことでしょう。それは、科学の進んだ現代でも変わらないことのようにです。

「歴史は繰り返す」と言われますが、その歴史を知ることによって現代を見直し、そして未来への糧とすることの大切さを、今回の資料を見ながら改めて認識しました。そのためには、資料を残すこと、歴史を記録することが、最も大事なことなのです。



明治41年竣工当時の私立小坂鉾山病院

「かぶきん」をご利用ください

デザイン



©小坂町かぶきん

全部で17種類!
新しいデザインも登場
したのでございます

次は
どこで誰に会えるので
ござりますか?



着ぐるみ

こんな形で利用していただいたてござります

- ・グッズ(ワッペン・バッジ等)
- ・小坂七夕祭の山車

これまでこんな所へ行ったてござります

- ・学校などの町内各施設
- ・町内外の祭り・イベント

町内外、個人・団体問わず誰でもご利用いただけます。
さまざまな形で「かぶきん」をもっと人気者に!

ご利用にあたっては「取扱要項」「貸付要項」を確認の上、使用ください。小坂町ホームページでもご確認いただくことが可能です。なお、着ぐるみは「要事前予約」となり、基本的に借用者自身で運搬していただく形となります。

観光名刺をご利用ください!



このたび新しいデザインの観光名刺ができました。「十和田湖」や「康楽館」など小坂町を代表するスポットや小坂町マスコットキャラクター「かぶきん」のイラストが入ったデザインもあります。

町民の方または町内の企業、職場へお勤めの方であればどなたでもご利用いただけます。

ご利用希望の方は役場2階観光産業課観光商工班窓口またはお問い合わせ先までご連絡ください。

●お問い合わせ先 観光産業課観光商工班 TEL29-3908 TEL29-5481
E-mail : kankou@town.kosaka.akita.jp